

第2章 日本語教室調査の結果

1. 教室の概要について

(1) 教室の概要

問1 教室の概要についてお答えください。

◇ 設立時期

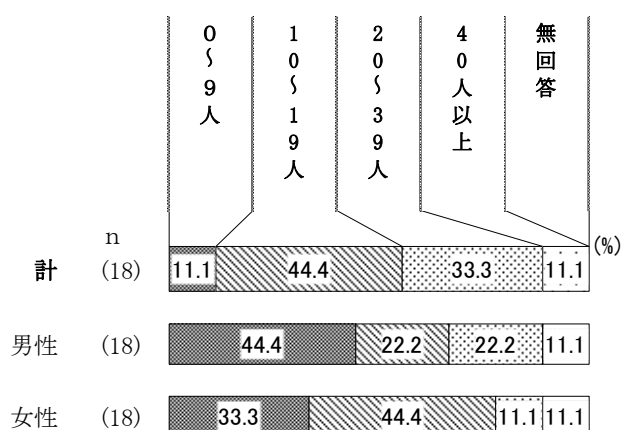
設立時期は、西暦でみると「2000年以前」が8件、「2001～2010年」が5件、「2011年以降」が5件となっている。

◇ 学習者の性別・国籍別・在留資格別人数【全講座合計】※2020年3月31日現在

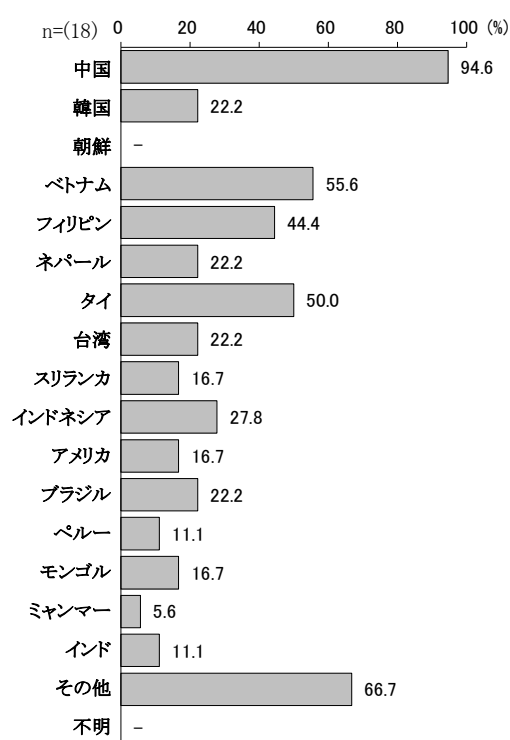
性別の学習者数は、男性は「0～9人」が44.4%（8件）、女性は「10～19人」が44.4%（8件）となっている。計では「10～19人」が44.4%（8件）、「20～39人」が33.3%（6件）となっている。

国籍別の在籍率は、「中国」が94.6%（17件）と割合が最も高く、国籍別の人数は「中国」が196人と一番多く、次いで「ベトナム」が37人となっている。

各日本語教室の男女別学習者数



日本語教室における各国籍の在籍率

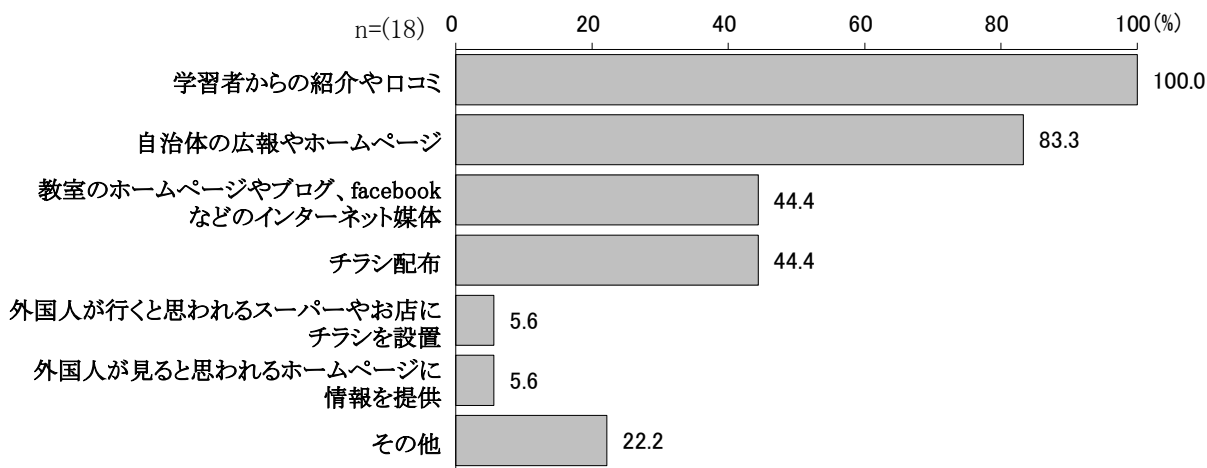


日本語教室の学習者の国籍別総数

国籍	中国	韓国	朝鮮	ベトナム	フィリピン	ネパール	
学習者数(人)	196	7	0	37	18	5	
国籍	タイ	台湾	スリランカ	インドネシア	アメリカ	ブラジル	
学習者数(人)	16	4	6	8	6	15	
国籍	ペルー	モンゴル	ミャンマー	インド	その他	不明	総数
学習者数(人)	3	6	1	7	79	0	414

(2) 学習者の募集方法

問2 学習者の募集方法を教えてください。【あてはまるものすべてに○】



学習者の募集方法は、「学習者からの紹介や口コミ」が100.0%（18件）で最も多く、以下、「自治体の広報やホームページ」（83.3%（15件））、「教室のホームページやブログ、facebookなどのインターネット媒体」と「チラシ配布」（ともに44.4%（8件））となっている。

また、その他（22.2%（4件））の具体的な内容として、「各機関からの紹介」（2件）などが挙げられている。

(3) 日本語教室の実施日時

問3 貴日本語教室の実施日時についてお答えください。

教室実施日時と時間帯は、土曜日の午前中に実施している教室が多くなっている。

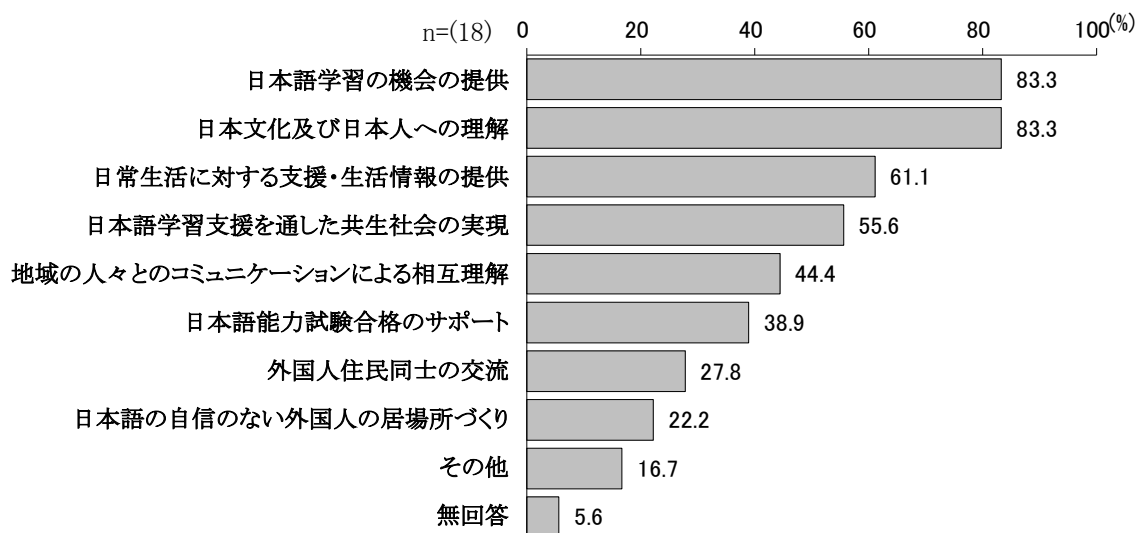
◇ 教室実施日時と時間帯

教室実施日時	時間帯		件数
月曜日	午前	10:00~12:00	1件
火曜日	午前	10:00~12:00	1件
水曜日	午前	10:00~12:00	1件
木曜日	午前	10:00~12:00	1件
	午後	13:00~17:00	1件
	夜	17:30~20:15	1件
土曜日	午前	10:00~12:00	3件
		10:00~11:30	1件
	午前・午後	10:00~15:30	1件
		11:00~15:00	1件
	午後	14:00~16:00	1件
		14:00~17:00	1件
水曜日・土曜日	午前	10:00~12:00	1件
木曜日・土曜日・日曜日	夜	17:30~19:30	1件
月曜日から土曜日	午前・午後・夜	9:30~20:30	1件

2. 日本語教室について

(1) 日本語教室が掲げる目的（理念・方針）

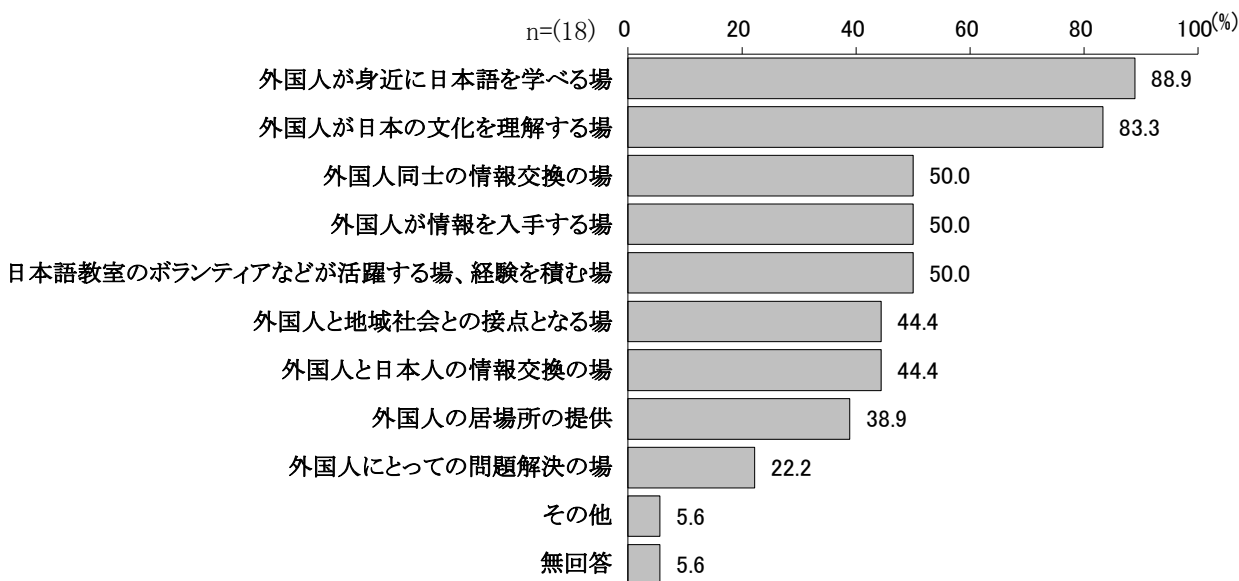
問4 貴日本語教室が掲げる目的（理念・方針）について教えてください。
【あてはまるものすべてに○】



日本語教室が掲げる目的（理念・方針）は、「日本語学習の機会の提供」と「日本文化及び日本人への理解」がともに83.3%（15件）で多く、以下、「日常生活に対する支援・生活情報の提供」（61.1%（11件））、「日本語学習支援を通じた共生社会の実現」（55.6%（10件））、「地域の人々とのコミュニケーションによる相互理解」（44.4%（8件））となっている。

(2) 日本語教室に求められている役割

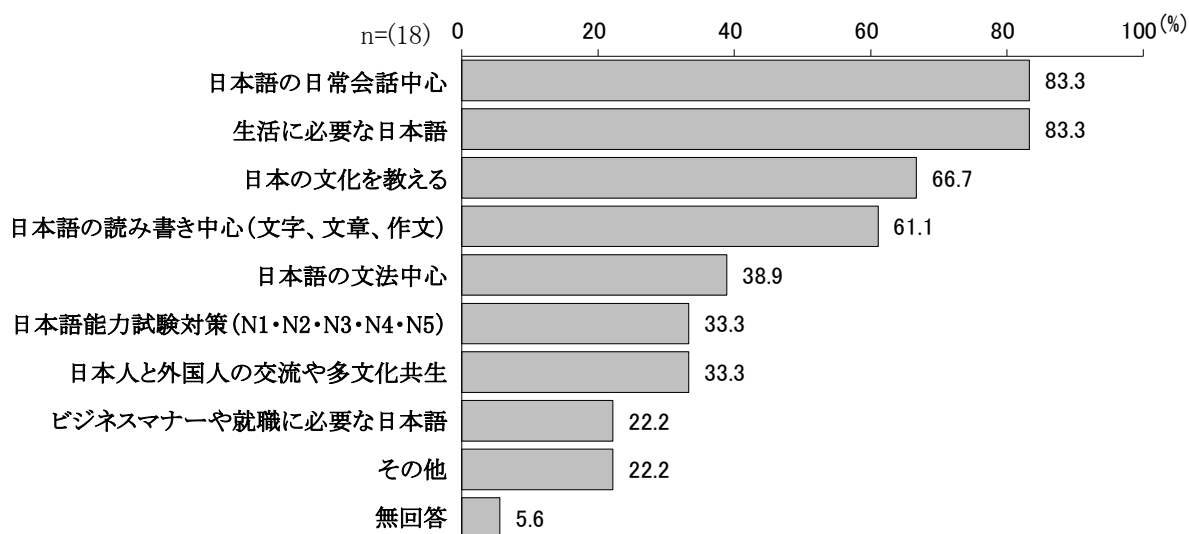
問5 貴日本語教室に求められている役割とはどのようなものだと思いますか。
【あてはまるものすべてに○】



日本語教室に求められている役割は、「外国人が身近に日本語を学べる場」が88.9%（16件）で最も多く、以下、「外国人が日本の文化を理解する場」（83.3%（15件））、「外国人同士の情報交換の場」、「外国人が情報を入手する場」、「日本語教室のボランティアなどが活躍する場、経験を積む場」（いずれも50.0%（9件））となっている。

(3) 教室の活動内容

問6 教室の活動内容を教えてください。【あてはまるものすべてに○】



教室の活動内容は、「日本語の日常会話中心」と「生活に必要な日本語」がともに83.3%（15件）で多く、以下、「日本の文化を教える」（66.7%（12件））、「日本語の読み書き中心（文字、文章、作文）」（61.1%（11件））となっている。

3. 日本語教室の実施体制と日本語ボランティアスタッフのスキルアップ等について

(1) 日本語ボランティアスタッフの人数

問7 貴日本語教室で活動されている日本語ボランティアスタッフの人数を教えてください。※2020年3月31日時点【数字を記入】

日本語ボランティアスタッフの人数を平均でみると、「60歳以上」が男性3.2人、女性4.6人と最も多くなっており、合計でも男性4.2人、女性8.3人と男性に比べて女性スタッフの人数が多くなっている。

(平均)

n=18	19歳以下	20～39歳	40～59歳	60歳以上	不明	合計
男性	0.0人	0.1人	0.1人	3.2人	0.0人	4.2人
女性	0.0人	0.4人	1.7人	4.6人	0.0人	8.3人
全体	0.0人	0.4人	1.7人	7.3人	0.0人	12.6人

(2) 日本語ボランティアスタッフのスキルアップのために行っていること（自由記述）

問8 日本語ボランティアスタッフのスキルアップのために、教室として行っていることがあれば教えてください。

日本語ボランティアスタッフのスキルアップのために行っていることは、下記のとおりとなっている。

◇勉強会や情報共有を行っている

意見
教室後ボランティアが残り、学習報告の時間を設けている。文法の解釈や学習者からの質問に答えられなかった事等を、皆で話し合う事でスキルアップに繋げている。又、ボランティアが個別に積極的に研修会に参加している。
・毎月1回の定例会（各クラスの進捗状況の確認等、情報交換）
・県・市主催の講座参加費の補助
・毎回、学習指導後にミーティングを行い、学習者に応じた教材の使い方、指導方法等を話し合っている。
・他団体が開催する研修会への参加

◇養成講座や研修の実施、他団体の研修への参加

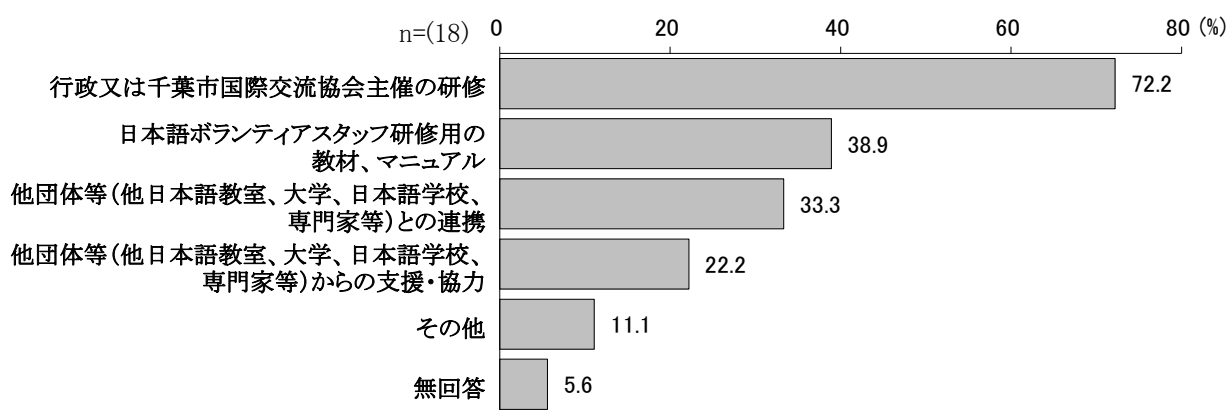
意見
・スキルアップ講座を計画開催（日本語教育専門家に依頼）
・子ども達の来日背景を理解するための講座開催（2019年度は国際行政書士に依頼）
・他市開催の講座をメンバーに案内し参加を促している。
・教室内研修会
・他団体研修会参加
お互いの授業を見せ合う。相互研修
他団体での日本語の教育についての研修への参加（希望者）

◇その他

意見
国際交流協会他、他団体で行っている研修会・講習会をお知らせし参加を促している
・市が主催するスキルアップ講座には積極的に参加する様、講座料等を補助している。
・新しい教材等を購入している。
教室として行っていることはないが、相互に話し合っている。また、関係機関の研修会等を案内する。指導者は、各自ネットで知識を得たり、資料を取り出したりして指導に役立てている。
時折ネットで役に立ちそうな教材などの情報を提供。
特になし（3件）

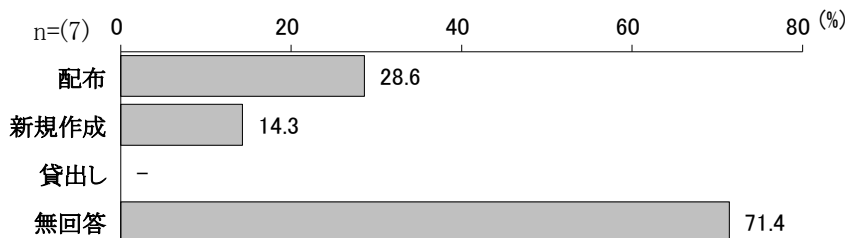
(3) 日本語ボランティアスタッフのスキルアップのためにあると望ましいと思うもの

問9 日本語ボランティアスタッフのスキルアップのためにあると望ましいと思うものはありますか。【あてはまるものすべてに○】



日本語ボランティアスタッフのスキルアップのためにあると望ましいと思うものは、「行政又は千葉市国際交流協会主催の研修」が72.2%（13件）で最も多く、以下、「日本語ボランティアスタッフ研修用の教材、マニュアル」（38.9%（7件））、「他団体等（他日本語教室、大学、日本語学校、専門家等）との連携」（33.3%（6件））、「他団体等（他日本語教室、大学、日本語学校、専門家等）からの支援・協力」（22.2%（4件））となっている。

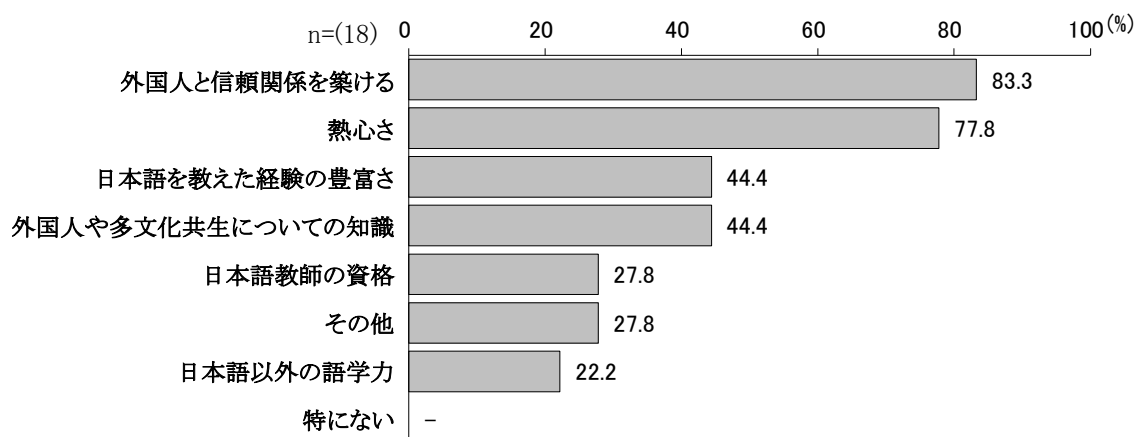
◇ 日本語ボランティアスタッフ研修用の教材、マニュアル



また、「日本語ボランティアスタッフ研修用の教材、マニュアル」と回答した教室（7件）では、「配布」が28.6%（2件）、「新規作成」が14.3%（1件）となっている。

(4) 日本語ボランティアスタッフに求める能力や姿勢

問10 日本語ボランティアスタッフに求める能力や姿勢などについて教えてください。
【あてはまるものすべてに○】



日本語ボランティアスタッフに求める能力や姿勢は、「外国人と信頼関係を築ける」が83.3% (15件)で最も多く、以下、「熱心さ」(77.8% (14件))、「日本語を教えた経験の豊富さ」と「外国人や多文化共生についての知識」(ともに44.4% (8件))となっている。

(5) 日本語を教えていて困っていること (自由記述)

問11 日本語を教えていて困っていることがあればお書きください。

日本語を教えていて困っていることは、下記のとおりとなっている。

◇学習スタッフについて

意見
ボランティアスタッフが高齢化しているが、若い人の参加がほとんどない。日本人なら日本語が教えられると考えていて、語学としての「日本語」に関心のない方がいる事。
今のところはいいのですが、将来、ボランティア、学習者の不足が起きた場合、相談できる窓口があったらと思います。

◇学習者のレベル差について

意見
レベルの違う学習者を一緒に教えなければならないとき。
様々なレベルの学習者に対応できないことがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の学習速度に関する統一的な方針を打ち出すことの困難 ・学習者のレベルに応じたクラス編成が困難
<ul style="list-style-type: none"> ・学習者レベルに応じた日本語習得の為のカリキュラム作成 ・日常会話は出来るが、学習用語が分からないのでテストの問題が理解できない。 ・自分の意志を伝えたり、先生や友達の言っていることを理解するのが難しく、なかなか喋らなかつたり手が出してしまうことがある。 ・必要な持ちものを持ってこない等、親への伝達が難しいことがある。

◇仕事との両立について

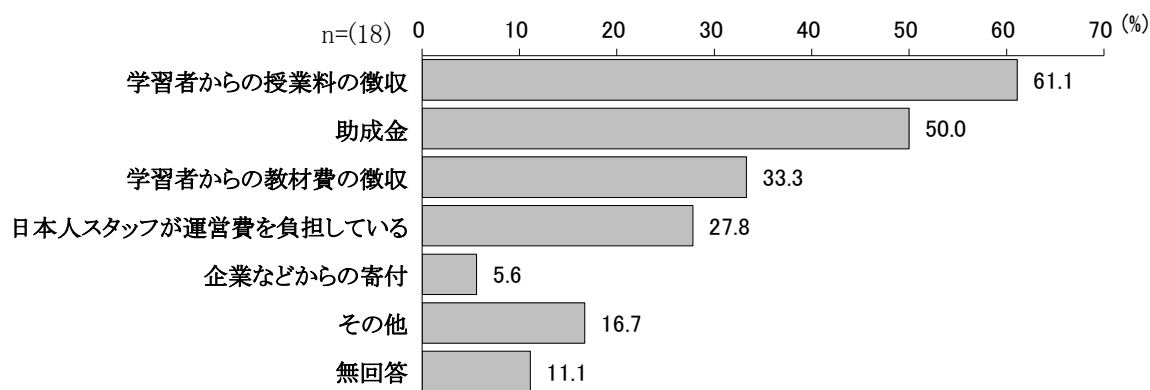
意見
ある程度上達すると”仕事”につき辞めてしまうこと
技能実習生の場合、仕事が終わってからの来校なので学習時間が十分にとれない。

◇その他

意見
全く通じない言語が母語である生徒への指導
学習者個人の問題に対する対処の仕方（経済的なこと、生活環境等）
入会時に学習者の情報をどの程度、把握しておかなければならないかということについて悩んでいます。現在は、名前・国・来日日時・理由・住んでいる町名程度聞きます。不法滞在、不法就労の人もいそうなのでビザを提示してもらった方が良いかどうか。
問13のとおり。（注釈：「教室の場所の確保が難しい」「学習者が長続きしない」「学習者が増えない・募集方法が分からない」「学習者の日本語レベルが違いすぎる」）

(6) 運営費の調達方法

問12 運営費をどのように調達していますか。



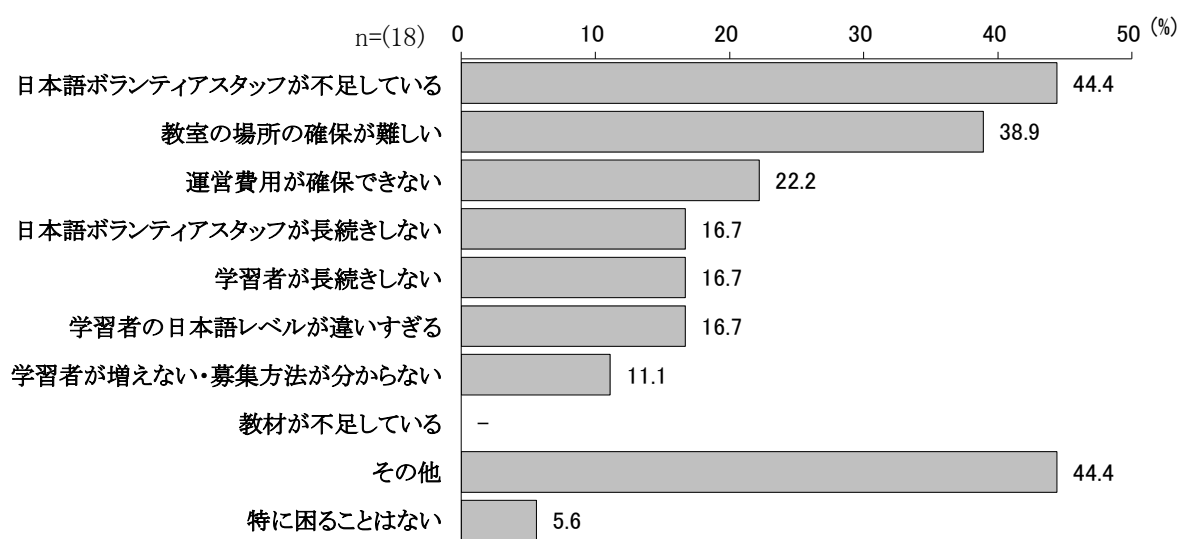
運営費の調達方法は、「学習者からの授業料の徴収」が61.1%（11件）で最も多く、以下、「助成金」（50.0%（9件））、「学習者からの教材費の徴収」（33.3%（6件））、「日本人スタッフが運営費を負担している」（27.8%（5件））となっている。

また、調達方法別に運営費（年間）の平均金額をみると、「学習者からの授業料の徴収」（11件）は64,327.3円、「助成金」（9件）は471,250.0円、「学習者からの教材費の徴収」（6件）は6,000.0円、「日本人スタッフが運営費を負担している」（5件）は1,800.0円となっている。

※「学習者からの授業料の徴収」について、2件（336,000円、276,000円）が高額であり平均値に影響を及ぼしているが、その2件を除いた場合の平均値は10,622円となる。

(7) 教室の運営で困っていること

問13 教室の運営で、困っていることはありますか。【あてはまるものすべてに○】



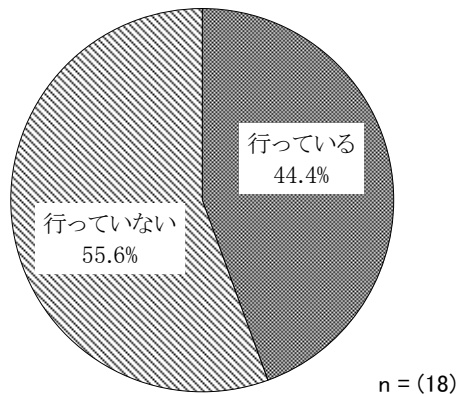
教室の運営で困っていることは、「日本語ボランティアスタッフが不足している」が44.4%（8件）で最も多く、以下、「教室の場所の確保が難しい」（38.9%（7件））、「運営費用が確保できない」（22.2%（4件））、「日本語ボランティアスタッフが長続きしない」、「学習者が長続きしない」、「学習者の日本語レベルが違いすぎる」（いずれも16.7%（3件））となっている。

また、その他（44.4%（8件））の具体的な内容として、「ボランティア・スタッフの高齢化」（5件）などが挙げられている。

4. 他団体との連携や今後について

(1) 他の団体や日本語教室との連携や交流

問14 他の団体や日本語教室との連携や交流を行っていますか。【〇は1つ】



他の団体や日本語教室との連携や交流は、「行っていない」が55.6%（10件）、「行っている」が44.4%（8件）となっている。

連携を行っている団体との交流内容は、下記のとおりとなっている。

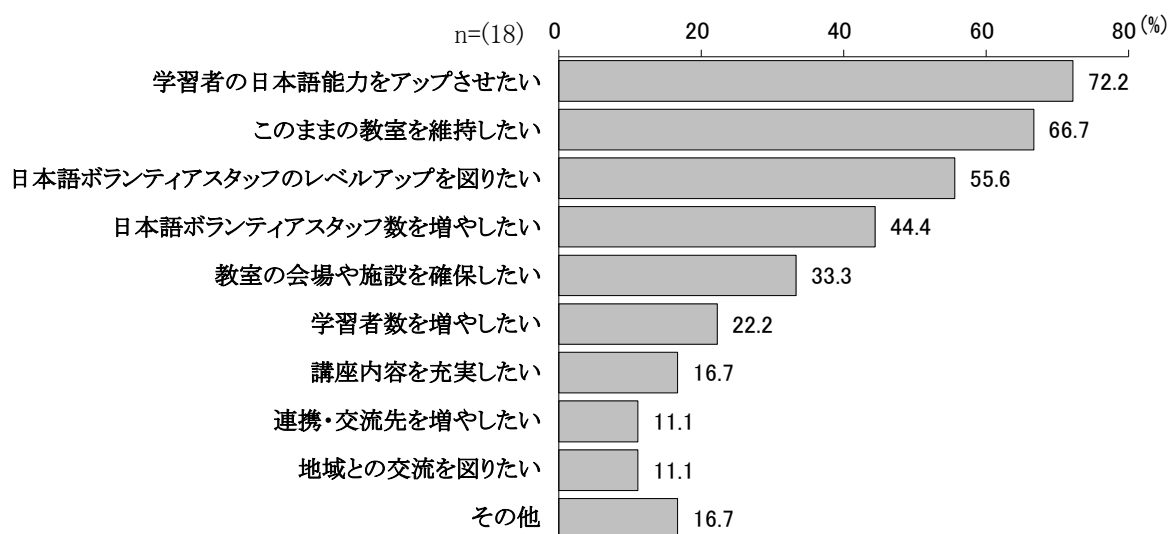
交流内容
情報交換（2件）
運営等全般
学校に入っているボランティアに地域の教室でも学習出来る事を伝えてもらっている。
研修講座の案内
派遣先の学校に在籍している生徒等に本会の紹介を行っている。
遠方から来た学習者に近くの教室を紹介しているがその団体との交流は特にならない。

連携を行っていない理由は、下記のとおりとなっている。

連携を行っていない理由
以前はセンシティ土曜日本語学級のグループだったが、それぞれに独立したため。
当会のような社会人対象のクラスレッスンをしている団体がない
中に入って取りまとめる人がいない
・指導教材・内容は大体共通しているから。
・かけ持ちの学習者については、それぞれの教室での学習の進捗状況などの共有は時間を用するのでむずかしい。
・学習者を通して伝えてもらい、また伝え聞くことができるので。
必要ない、困らないから（3件）
機会がないから（2件）

(2) 今後、教室をどのようにしていきたいか

問15 今後、教室をどのようにしていきたいとお考えですか。【あてはまるものすべてに○】

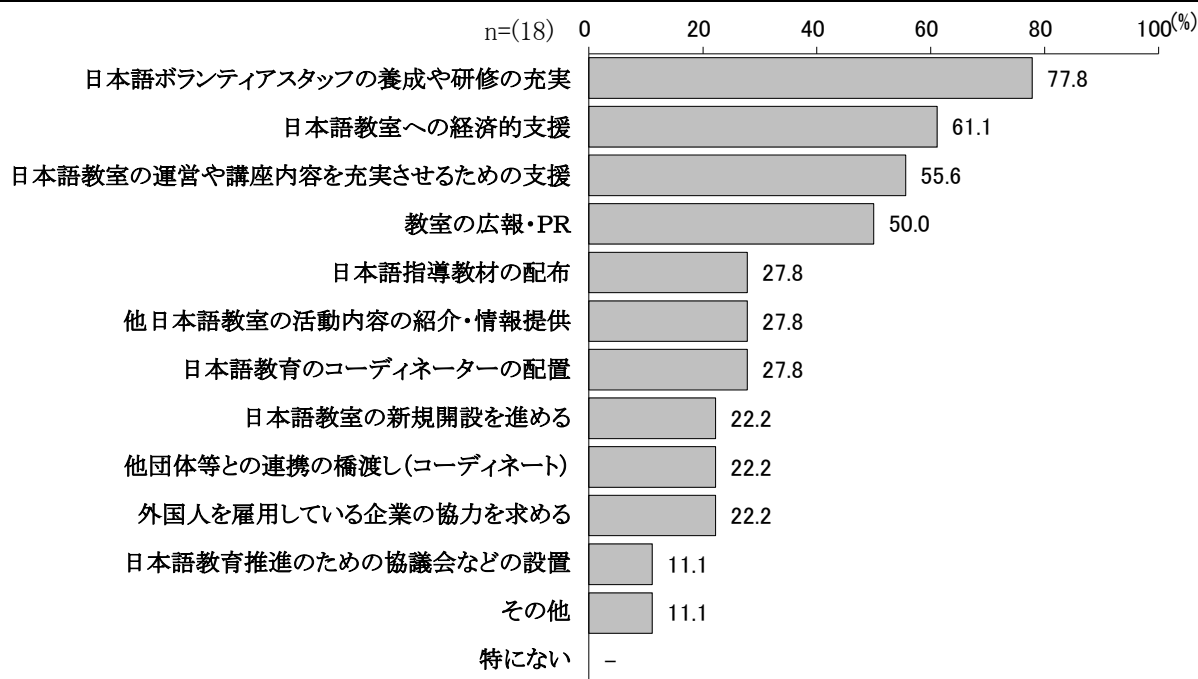


今後、教室をどのようにしていきたいかは、「学習者の日本語能力をアップさせたい」が72.2%（13件）で最も多く、以下、「このままの教室を維持したい」（66.7%（12件））、「日本語ボランティアスタッフのレベルアップを図りたい」（55.6%（10件））、「日本語ボランティアスタッフ数を増やしたい」（44.4%（8件））となっている。

5. 千葉市に期待することや市の地域日本語教育推進計画への期待について

(1) 今後、千葉市に期待する市内の日本語教室についての施策

問16 今後、千葉市内の日本語教室について、市にどのような施策を期待しますか。
【あてはまるものすべてに○】



今後、千葉市に期待する市内の日本語教室についての施策は、「日本語ボランティアスタッフの養成や研修の充実」が77.8%（14件）で最も多く、以下、「日本語教室への経済的支援」（61.1%（11件））、「日本語教室の運営や講座内容を充実させるための支援」（55.6%（10件））、「教室の広報・PR」（50.0%（9件））となっている。

(2) 日本語教育コーディネーターに期待すること（自由記述）

【問16-1は、問16で「他団体等との連携の橋渡し（コーディネート）」「日本語教育のコーディネーターの配置」に○をつけた方にお聞きします。】

問16-1 日本語教育コーディネーターに期待することは何ですか。

日本語教育コーディネーターに期待することは、下記のとおりとなっている。

日本語教育コーディネーターに期待すること
スタッフ研修（3件）
外国人居住者と各日本語教室の橋渡し役（2件）
1. 各日本語教室の抱える様々な個別的問題についての相談窓口並びに行政への橋渡し役。 2. 日本語教室で役に立つ教材や資料の紹介・案内・作成。
日本語ボランティア教室の目指すところは似通っていても抱える問題はさまざまであると思います。問題点を共有し、一定の方向性が見つけられるように、コーディネーターの方と忌憚のない意見交換ができればと期待します。
創立当時は、教育に関心のある大学生の参加があり、生徒達も身近なお兄さん、お姉さんとして接していました。コーディネーターの方には、将来教育関係の職業を希望する大学生が参加できるように橋渡しの役割を期待します。
各教室の実状にそったヒントややり方の相談にのって頂けるような機会があればと思います。
全くゼロレベルの学習者の講座を開設して、千葉市全域から学習者を募り、基本的な日本語ができるようになる研修をしてほしい。ゼロレベルの学習者を指導できるボランティアは限られている。

(3) 千葉市における地域日本語教育推進計画の策定に期待すること（自由記述）

問17 千葉市における地域日本語教育推進計画の策定に期待することがあればお書きください。

千葉市における地域日本語教育推進計画の策定に期待することは、下記のとおりとなっている。

千葉市における地域日本語教育推進計画の策定に期待すること
外国人児童生徒への対応（5件）
日本語学習ボランティアの育成（3件）
毎年、わたし達のフリースクールと公立夜間中学校の両方で勉強する生徒がいます。フリースクールが終って、市川市立大洲中学校、松戸市立みらい学級まで行き、帰宅するのが午後10時過ぎになります。1日4時間の授業を2回、それも全く違う場所です。千葉市にも公立夜間中学校を設立して下さい。
1. 行政における「日本語学習支援を通じた共生社会の実現」の優先度を向上。 2. 日本語学習支援並びに地域の日本語教室支援について、行政のファシリテーターとしての機能・役割の充実及び強化（例：日本語教室、行政の関連部署、各地域区役所等関連機関との間での連携度を上げるなど）。
地域の日本語教室のニーズが高まる昨今、意欲あるボランティア希望者がとり組みやすいしっかりした内容の養成講座の開講を期待しています。また、広く意見を募り、問題点をシェアし、日本語指導を通じてより良い共生社会へ進んでいけるようなサポートも期待しています。
私達の団体は、将来日本の社会で共生するであろう子供達への支援団体ですが、設立以来支援会場の確保に非常に苦労しています。千葉市には、支援するための固定会場の確保に協力していただきたいと思います。
地域日本語教室連絡協議会などを開催し、他団体との情報交換、交流を図る。
地域に暮らす外国人は年々増えていて、日本語に不自由を感じている方も多いが、日本語を教えている団体は経済的基盤がなく、持ち出して活動している団体が多い。共生社会を実現するためには、財政支援が必要。民間だけにゆだねるだけでなく、行政の関わりについても検討してほしい。

